

「心を温める秘密の仕組み」

宝彩有菜

人間の頭は「人の幸福」と「自分の幸福」を等しく考える能力があります。スペースも場所もあります。それらを偏ることなく、万遍なく使っていると、問題はありますが、「自分の幸福」ばかりを考え始めると、自分が冷たくなっていきます。

その理由は、「人の幸福」を考える部分に「電気」が通じないので、その部分が冷えてくるからです。冷たい感じになります。さて、では、なぜ、電気が通じないのかと言えば、それは「自分の幸福」ばかりを膨らませようと、自分方面だけに電気を流しているから、したがって「人の幸福」を考える部分に、電気が流れないのだろうと普通は思います。

一見そのように思えますが、しかし、人間は生きていますから、すべての細胞は、生きています。連携していません。ですから、何も手を加えなければ、電気は、「人の幸福」の部分へも、自動的に流れて行きます。たとえ「自分の幸福」ばかりを大量に考えていたとしても、何もしなければ、その電気は、「人の幸福」の所へも、同じように大量にどどどどと流れて行きます。もともと、繋がっているのですから、どこで活発に考えていても、必ず全体に行きわたります。

しかし、実際は、「自分の幸福」だけを、より優先して考えようとするために、「人の幸福」に行く経路を、故意に遮断しています。電気を流していないのではなくて、流れないように遮断しているのです。生きている細胞同士が繋がっているのを、故意に遮断するには、頭の中のその部分を「物理的に」切断するわけにいきませんから、「生理的・化学的」な処理で切断しています。つまり、「毒」を盛って麻痺させて電気を伝えないようにしています。

さて、そのようなことをしていると、その「毒」がしだいに頭の中で霧が広がるように蔓延してきます。すると、「苦しい」「楽しくない」「なんとなく不幸だ」という感じがしてきます。それはそうです。「自家製の猛毒」が頭の中を蔓延して来たら誰でもそうなります。そこまで行くと重傷です。ただちに、その毒気を取り除くべきです。まずは、毒を盛る作業を中止するには、「人の幸福」に関心を向けます。すると、ただちに毒製造が中止され、改善に向かえます。さらに「人の幸福」を考えると、今度は「毒消し」が出て、全面的にあつという間に改善されます。

このように、人間の頭の仕組みは、「自分だけが幸福になろう(欲)」と思ったら「自分が不幸になり」、「人をも幸せにしよう(愛)」と考えると「自分が幸せになる」という仕組みになっています。とてもトリッキーな仕組みですが、この仕組みの秘密を知った人は、手間暇掛けずに自分がさっさと幸せになれるわけです。このトリッキーな仕組みは、教えられなくても知っている人も、極たまにいます。しかし、ほとんどの賢くも「強欲な私たち」は、皮肉なことに逆の方向へ、逆の方向へと、突っ走るわけです。そして走れば走るほど、不幸になりますから、さらに、スピードを上げて「自分の幸福」を追いかけるわけです。

「幸せは追いかける方向には無い」のです。「幸福の青い鳥は、外ではなく、すでに手中に在る」のです。

「人の幸福」の部分に電気を流してください。そうすれば、心はすぐに内側から温かくなります。「毒」も消えて無くなるので、すぐに幸福になれる。もちろん、健康で、元気になります。心も身体もほかほかと温かくなります。良いことばかりです。

宝彩有菜

(※「猛毒消し」の一つに、「快感ホルモン」があります。「猛毒」を出せる人は、練習すれば誰でも「快感ホルモン」も出せます。頭の中の思考の同じ製造工程で、「欲」を混ぜるか、「愛」を混ぜるかの違いだけですから。)